

支援と復旧

9月20日の台風16号災害からあつという間に一ヶ月が経過しました。自宅や農地など、復旧にはまだ時間を必要としています。様々な人の支援によって、ひとまずの日常を取り戻しつつあります。今月号では、その支援と復旧についてお伝えいたします。



広がる支援の輪

ボランティア 延べ1,327名 のチカラ

差し伸べられる手

被災後、大きな力となるのがボランティアの支援です。平成28年9月23日（金）、その拠点となる災害ボランティアセンターが、垂水市社会福祉協議会により水之上体育館に設置されました。センターがその役目と終えた10月8日（土）までの16日間、ボランティアに駆けつけてくださった方は、延べ1,327名、1日平均83名の方にご支援をいただきました。参

加者は、遠くは北海道、東京、愛知をはじめ全国各地から参加をいただきました。また現地では、学生の姿も多く見られ、地元高校の水水高校をはじめ、鹿児島商業高校、鹿屋体育大学の学生などが団体で参加いただきました。また自治体間の繋がりから、鹿児島市をはじめ、本市職員を含めた自治体職員の参加もいただきました。この場を借りて、御礼申し上げます。ありがとうございました。

【写真】

- ① 災害ボランティアセンターでの様子。参加者は受付後、スタッフから説明を受けて、現地に向かいます。
- ②⑦ 水之上地区（井川）で垂水高校生が作業する様子。同校からは生徒・教員を含めて164人が参加。
- ③⑤ 鹿児島商業高校生が作業する様子。同校からはバスケット部・剣道部の部員が中心に参加。
- ④ 牛根地区（浮津）
- ⑤ 水之上地区（井川）
- ④ 牛根地区（牛根麓）磯脇橋近くでの床下土砂撤去の様子。
- ⑥ 水之上地区（井川）で泥に浸った量を撤去する様子。
- ⑧ 最終日（10月8日）は、地元事業者（大隅ミート産業株式会社）より、参加者に対し豚汁の振る舞いが行われた。